

令和5年度埼玉県景気動向指数懇話会の概要

1 日 時 令和5年11月20日（月） 15:00～16:00

2 方 法 Zoom ウェビナー

3 出席者 埼玉県景気動向指数懇話会委員 9名（代理出席含む）

※ 埼玉県景気動向指数懇話会委員は、名簿のとおり

4 議 題

- (1) 景気の谷（2020年6月）以降の動きについて
- (2) 労働投入量指数の一致指数への採否について
- (3) 内閣府の新一致指数について

5 結 果

- (1) 景気の谷（2020年6月）以降の動きについて
 - ・ 現行の第15循環を第15・16循環ということについて了承された。
 - ・ 事務局から、第17循環のヒストリカルDIの動きについて、2022年10月から2023年1月までマイナスが過半数を占めた後、2023年2月から8月まで再びプラスが過半数となったことを報告した。
 - ・ 一致指数の指標のうち、県鉱工業生産指数の水準が景気後退局面で切り下がっていることと比較して、県民経済計算の製造業の規模がそれほど低下していないこととの関係について議論が展開された。

【主な意見】

- ・ 景気の谷（2020年6月）以降の動きについては、今のところ、一時的に下り坂になったが、まだ山をつけたとはいえ、今後、注視して見ていくべきである。
 - ・ 産業を固定して直近の変化を見るのが鉱工業指数で、ある程度長期の趨勢を見るのは県民経済計算であり、使い分けをすることが適当ではないか。
 - ・ 鉱工業指数によって測っているのは生産額で、県民経済計算によって測っているのは付加価値であり、それぞれ測っているものが異なると考えられるのではないか。
- (2) 労働投入量指数の一致指数への採否について
 - ・ 所定外労働時間指数の代替指標として、労働投入量指数及び総実労働時間指数、それぞれの指標の一致指数への採否にかかる検討結果の報告を行った。

- ・ 労働投入量指数については、採用すると直近の景気の谷が 2020 年 9 月となり景気の実態にそぐわないため採用は避けるべきであり、また、総実労働時間指数については、パフォーマンス等が現行の所定外労働時間指数と比較してさほど優位であるともいえないため採用を見送ることとしたいと報告し、その旨了承された。
- ・ 非正規労働者の割合が増加していることが指数にどう影響しているのかについて、また、県レベルのデータの制約について議論が展開された。

【主な意見】

- ・ 雇用の調整は景気に遅行するため、指標に雇用者数の要素が含まれている労働投入量指数は採用しにくいのではないか。
- ・ 残業時間（所定外労働時間指数）を取るか、全体の労働時間（総実労働時間指数）を取るかということについては、景気に反応しやすいという意味で、残業時間の方がよいのではないか。ただし、いわゆる 2024 年問題で、物流や建設関係で残業の上限規制ができるため、景気以外の要因で下がる可能性があり、影響を注視していく必要がある。
- ・ 非正規雇用の方が労働時間の変動が少ないと考えられるため、労働時間の指数に非正規雇用の労働時間も含まれているのであれば、非正規雇用の比率が高まるほど、指数の反応の度合いが小さくなるのではないか。
- ・ 例えば、スキマバイト募集サービスによる雇用が、生産量に鮮明に反応するような労働市場の動きも出てきているため、このような指標に使える数字になってきている可能性はあるのではないかと考えられる。しかし、県単位のデータがないという制約の問題はあるだろう。

(3) 内閣府の新一致指数について

- ・ 昨年度の懇話会において、内閣府の新一致指数を適切に把握、研究していく必要があるとの意見が出されたことから、新一致指数の現在の状況について数値を確認した。
- ・ 2020 年 6 月以降景気拡張局面において、2022 年に入ってから、サービス部門の方は強いが、財部門は横ばいといった状況であった。

【主な意見】

- ・ 新一致指数は、生産・分配・支出面への分解、財とサービスへの分解ができ、それぞれの動きを分析できるところがよい。
- ・ 製造業の動きにサービス業が引っ張られるのが通常の動きであるため、現在のように財部門が横ばいにもかかわらずサービス部門が上がっているという局面は、過去にはなかったのではないかと考えられる。
- ・ 新一致指数作成に使用している第三次産業活動指数の公表日が比較的

遅いことから、新一致指数の公表日は現行指数よりも遅くなってしまったため、新一致指数の方に代わるかどうかは微妙だと考えられる。

- 現行一致指数は製造業に偏っているという批判があり、また、新一致指数の財は弱めであるにもかかわらず、現行一致指数は、景気が拡大しているような絵になっており、景気全体の姿をあらわしていることに不思議な感覚を覚えた。

埼玉県景気動向指数懇話会 委員名簿

(敬称略)

山澤	成康	跡見学園女子大学マネジメント学部 教授
丸茂	幸平	埼玉大学人文社会科学研究科及び経済学部経済学科 准教授
樋口	広治	埼玉りそな産業経済振興財団 研究主幹
清水	雅之	日本銀行調査統計局 調査主幹・埼玉県経済総括
満谷	聡	財務省関東財務局総務部 経済調査課長
坪井	京子	経済産業省関東経済産業局企画調査課 経済調査室長
鈴木	勇	厚生労働省埼玉労働局 職業安定課長
鈴木	健一	埼玉県企画財政部 計画調整課長
竹内	康樹	埼玉県産業労働部 産業労働政策課長
伊藤	佳子	埼玉県総務部 統計課長